'91 4月号 No. 462

京交山岳部報

今月のテーマ　≪残雪を賞でて≫

〔第1829回例会〕 ★★★

春山大会
荒　島　岳

日　時　4月6日(土)～7日(日)
集　合　壬生　6日PM2：00
コース　京都東IC－福井IC－大野－勝原(泊)…小荒島…荒島岳…勝原－京都
担当者　井戸澄夫（☎756 工事課）
備　考　テント泊。マイカーで行きます。お早目に申し込みを。シュラフ、アイゼン、ワカン、ストック、冬山装備一式

〔第1830回例会〕

国師ケ岳と金峰山
1等△2592　△2595

日　時　4月13(土)～14(日)
集　合　九条車庫　AM　6時
コース　東IC－甲府昭和IC－窪平－大弛峠…国師ケ岳…大弛峠(泊)…金峰山…大弛小屋－(往路帰洛)
担当者　大槻雅弘（☎544 職員課）
備　考　早春の秩父方面の1等の山と百名山の山へ登りたいと思います。テント泊りと車の都合がありますので事前に担当へ申し込んで下さい。テント地は夢の庭園です。

今月の集会

日　時　4月10日(水)　PM6：00
場　所　厚生会館　4F　大教室

企画運営委員会

日　時　4月22日(月)　PM6：30
場　所　厚生会館　4F　大教室

〔第1831回例会〕 ★★

紀伊半島の山々

日　時　5月3日(祝)～5日(祝)
集　合　壬生　AM　5：50
コース　5／3　京都－関－新宮－烏帽子山－大地
5／4　大地－法師山－南部
5／5　南部－真妻山－京都
担当者　吉田　武（☎654 梅津）
備　考　民宿泊。費用30,000円。希望者は担当者まで。

山声雪語

憂　鬱　3　重　奏

岡　田　茂　久

この冬、久しぶりにうちのかみさんにせっつかれて野沢に出かけた。かみさんは十何年ぶりのスキーという訳で、念の為に傷害保険をかけていったのだが、まさか自分自身がお世話になろうとは思ってもみなかった。なんでもないスロープだったが、吹雪いていた為ギャップで飛ばされて思わず手を着いてしまい、雪の堅さを右手の親指で確かめてしまったのである。翌日、会社の近所のペイントクリニック・外科と看板のある医者に駈けこんだが、内出血をして腫れ上がった指に痛止めの注射を3本、はい、又、明日痛かったら来て下さい。「先生、レントゲンの診断は」「うちにはレントゲンはありません」。助けてくれと思ったが、その夜から会議と出張が続き、痛む拇指をテーピングで固め、やっと数日後に行き付けの我家の近くの整形外科へ、幸い骨には異常はなかったが関節捻挫で全治1ケ月の重傷である。今はどうやら腫れはひいたものの痛みはとれず、利き手の負傷はなんとも不自由なもの、おまけに持病気味の腰痛を併発し、アイタタ！アイタタ！と理学治療に通っている。そうこうするうちに目がクシャクシャしだしクシャミと咳が始まった。

「先生、カゼですねん。グスン」「カゼかどうかは診なけりゃ判らん」「すんまへん」「アハハー、こりゃ花粉症ですな」「先生どないしましょ」「まあ、たいしたことないからマスクでもしなさい。このごろ山行ったはりますか、ええ空気吸うて登山はよろしいな」ガーン！。そもそも登山歴35年、自分には無縁のものと思っていたのに、今頃どうして花粉症にならなあかんねん！フイットンチット吸いに行って、ついでに杉花粉とはシャレにもならない。

聞いてみると花粉症のメカニズムは、杉花粉に対する抗体が一定量以上身体に蓄積されると、アレルギー因子となり発症するということで、体質にもよるが昨年なんでもなかったから、今年も大丈夫というわけではないらしい。マスクは有効らしいが、完全なものは湾岸戦争の兵士か、養蜂用頭巾そっくりで、とても常用に耐えるものではない。対象療法としては、ブロック注射、鍼灸、漢方薬が良いと言われるが、中には杉の葉を煎じて飲めば良いなんてのもある。鼻の下にニンニク灸をすえると良く利くと教えてくれた人があったが、その格好を想像するだけでも我家の年頃の娘たちに見せられる様ではない。

昨年は暑かったせいか杉の実の成育が良く、今年は特に杉花粉の放散が多い状況ということであるが、最近、環境庁や農林省が協力して、花粉の放散が少ない品種を作ろうという研究も進められているらしい。まあ、それまではティッシュペーパーを横に置いて、ワープロを叩くのも仕方ないかと思っているが、クシャミと咳が腰と指に響くのがなんともつらい。そうだ傷害保険がおりたら静電遮蔽層付花粉症用マスクを買ってやろう。雨が降るのを密かに心待ちにする、なんとも山屋らしくない今日この頃である。

〔第1823回例会〕

積雪期の八ケ岳検定、講習、研修会

大　倉　寛治郎

京都府山岳連盟主催、指導委員会主管の積雪期検定、研修、講習会が平成3年2月9日（土）～11日（月）の3日間60名の参加を得て南八ケ岳東、西面一帯で、講師池　学、廣川健太郎、松本親憲氏を招き行なわれた。

私は、今回積雪期の研修と、他の山岳会の交流と鍛錬の為に参加をし多くの事を学び、友を得、交流を深める事が出来た。我が会からも多くの部員が参加される様、研修会を通じて感じました。8日（金）第一次18名は、20時京都市役所前をマイクロバスにて出発、第二次は22時マイクロバス2台に分乗し出発、集合地の中央道原PAにて合流、9日（土）早朝各ルートへ。マイクロ3台は美濃戸太陽館に駐車仮眠し午前7時縦走組は赤岳鉱泉へ、昼食後2班に別れ、硫黄岳、阿弥陀岳へ向う。

天気は大変良く。1班は当所の計画より時間短縮出来赤岳鉱泉に集まる事が出来た。その他の班はそれぞれの課題を消化し事故もなく鉱泉に戻る。

夕食時には全員が揃い明日の行動計画とパートナの紹介、懇親会が食堂と各部屋で行われた。

第一日目

第1班　天狗岳東陵、第2班　阿弥陀中央陵、第3班　阿弥陀南陵、第4班　阿弥陀岳縦走、第5班　硫黄岳縦走

第二日目

昨日と違い天候は大変悪く悪天候の中で予定通り実施され、また昨日に引き続き検定は午前7時から文三郎道周辺と中山乗越の下りで一部を除き実施された。その後赤岳鉱泉小屋に戻り各部屋に別れて試験課目を消化した。その他の班は、赤岳主陵班、赤岳沢奥壁班は途中ルート変更しジョウゴ沢から大同心に。峰の松目沢班は大分苦労をした模様。又、取付起点に人が多くルートを変更して裏同心へ。縦走班は地蔵尾根から赤岳、文三郎道を下り中山乗越付近でピッケルによる滑落停止の練習を行う。基礎技術班は行者小屋周辺にて課題を消化した。

夕食後、明日の行動計画と、池氏が参加した三国による（日本、ソ連、アメリカ）合同で、ヤックによる初のベリング海横断成功のスライドと講演を又、廣川氏、松本氏両名の山について講演を聞く、終了後講師を交え時間の許すかぎり懇親会が行われた。

第三日目

先発班は午前7時50分赤岳鉱泉出発太陽館で入浴と昼食をすませ一足先に京都へ。

後発班は、午前中確保技術と氷壁に別れそれぞれの課題を消化し太陽館に集合、入浴と昼食を取りマイクロ2台に分乗し事故もなく全員京都に着く。

最後に参加すれば必ず得ることがあるので皆さんもぜひ参加されます様望みます。

〔第1824回例会〕

岩菅山スキー登山

大槻雅弘

西日本に春一番、平年より16日早い。（2月11日毎日朝刊）

低気圧が、発達しながら日本海南部を東進する。西日本は風雨が強まり、突風や雷を伴う恐れもある。海や山は荒模様に。（10日朝刊）。帰宅して天気予報欄を見ると以上のようであった。

最終のリフトを降りて、係員に登山口を尋ねた。「どこへ登るんですか？」「岩菅山に行きまんねん。」「今日はやめときなさい。これからまだまだ風がきつくなるヨ。」地元の人の観天望気は間違いないが、そこは安サラリーマン、京都から12時間かけてやっとここまで来て、「ハイサイナラ」とはいかない。とりあえず、登山コース行動計画とメンバーを書いて渡し、「無理せんと天気が悪なったら引き返しまっさかい。」と言って出発した。

もう山はガスってきた。天気の下り坂を知らせている。ただ、今回の山行きに、1名心強い人が京都山の会から参加してもらった。それも、一度この時期に岩菅山に登っているという北大出身の藤田さん。北海道で4年間北の雪で山スキーを十分経験してきた人である。小生は初めてだが、天気さえ良ければそう難しい山ではないと思い、又、この雪のシーズンに一等三角点本点であるこの岩菅山にどうしても登りたかったから今回計画したのであった。

ゲレンデを後に、樹林帯を一登りすると、前寺小屋山だがガスで展望はない。標高△2,125mあるのだがスキー場から50m程の高度差で登れる。そこから、1ピッチ、登り切った所が寺小屋山で赤石山の分岐点である。ここにはしっかりした指導標があり岩菅山と赤石山の方向を示していた。海の大きな波のうねりのように、雪のコブを幾重にも越えてスキーを突込んだり、クロスさせたりアップアップしながら下る。稜線は相当風が強くなってきた。2,085mとおぼしき所へ着いたが視界が全くきかず、尾根の方向を定めるのに苦労する。

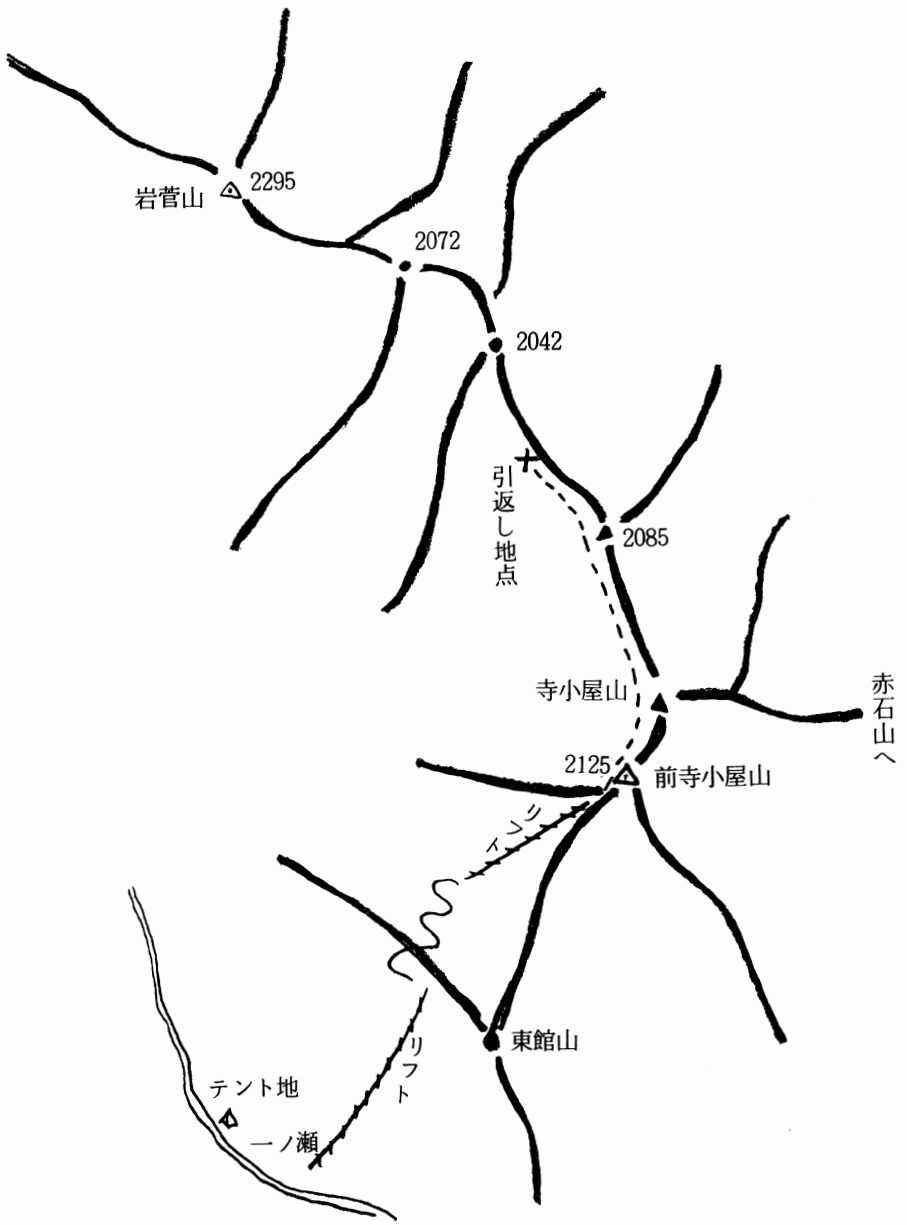
4年前、白馬岳から蓮華温泉へ下った時の吹雪が思い出される。あの時も、相当苦労した。リフトの兄ちゃんの言葉が耳につく。それに、「岩菅山は風がきつい」と言っていたことが……

今日も古市さんは頑張って行動しているが、こう天候が悪くてはトップとどうしても開く。その2,085mから30mほど急に下った平らな所で風をさけて一休みする。出発して1時間30分、熱い紅茶を口にふくみ、少し体を休める。このまま進むか、引返すかを判断する時だ。風はますます強くなり、眼鏡が凍てて前が見えない。手袋でこするがすぐに又見えなくなり、藤田さんはもうかけることをあきらめ外してしまう。残念だがこのまま進んでも、視界のない猛吹雪の山頂が待っているだけである。下りを考えると、今がチャンスと見て、引返すことに決定する。退却。

引返すといっても、今進んで来たのと同じくらい体力はいる。そう高度差はないが、登り、下りの多いルートに波を打ったような雪のコブに加えて、強風にはまいる。12時15分、スタート地点へ戻る。

ツェルトを張って狭い中で昼食を摂る。ささやかに乾杯。残念ではあったが、今日の行動としては、これが限度である。山は逃げないだろう。又のチャンスにチャレンジしよう。久しぶりに敗退

した山行であった。人は、もうそろそろ楽な山をと言うが、もう一頑張りイキたいと思っている。
〔参加者〕：古市　昌造、関本　俊雄、大槻　雅弘、藤田　孝夫（京都山の会）



（岩菅山概念図）

〔第1825回例会〕

積雪期救助訓練「廃村八丁」に於て

大　倉　寛治郎

京都府山岳連盟主催、遭難対策委員会主管の平成2年度、積雪期救助訓練が平成3年2月23日（土）～24日（日）の二日間、救助隊員を中心に京都北山廃村八丁で捜索、救助、搬送の訓練が京北署員、京都、大阪、滋賀の各岳連より75名の参加を得て行われた。

【目的とテーマー】

山岳遭難事故防止の一層の徹底を図るため、当連盟山岳救助隊員を中心に、捜索、救出、搬送等の技術の向上取得を図る。

場所は、京都北山の最も奥深い京北町廃村八丁付近、時期は2月に実施し多量の積雪が予想され実際の遭難事故に即した訓練を実施する。

1、今回の訓練は雪の中での行方不明者の捜索、救出、搬送で生存の可能性の強い行方不明者を生存中に救出し、安全な所へ搬出する、いかに時間短縮し、敏速に行動を取ることをテーマーの一つにしている。

2、単独の山岳会では出来ないことを、いろんな組織から参加された中から混成チームを組み一つの目的を持って敏速にスピーディーに搬出活動を行う。

3、全体を通じた伝達、通信については、私たちが使用しているアマ無線を活用して、正確で敏速な伝達通信によって全体の行動を把握することを大きなテーマにしている。

【救助訓練の概要】

京都市内の某山岳会から、会員が（廃村八丁）へ行くと出掛けたまま予定の日時になっても帰宅がないので、捜索、救助の要請が連盟にあり、直ちに会議を持ち捜索救助隊を編成し出動さす。

第一次捜索隊A班11名は京都バスで広河原からダンノ峠～廃村八丁へ。捜索隊B班14名は京北小塩からソトバ峠～廃村八丁へ両面から捜索活動に入る。第二次捜索隊は京北町、京北山の家現地本部に集合し、明朝から捜索救助活動に入る。

【救助訓練の活動報告】

2月23日（土）午前7時、第一次捜索隊A、CL宮川清明他10名はバス、B、CL藤谷照雄他17名は自家用に分乗し現地へ入り捜索活動に、京北山の家に現地本部を設置通信連絡体制を、A班は1時55分、刑部滝にて遭難者を発見、アマ無線にて連絡、直ちに遭難者の負傷箇所、状態を確認、（左足骨折）副木固定の処置、ザイル担架で搬送を行う、無線で積雪が多く救助隊の要請がB班の捜索活動中の無線機に入る、直ちに捜索現場から事故現場へ向かう、14時11分A班と合流、京大高分子山小屋の前進基地に負傷者を収容する。搬送用の柴ゾリを手分けして作成する、救助隊と負傷者25名は京大の山小屋に一泊し明朝からの救出作業に備える。第二次捜索隊は京北山の家に午後9時には50名全員集合し連盟を代表して清水理事長から訓練に対する主旨説明の後、遭対委員長から明日の訓練についての説明が行われた。現在前進基地の京大山小屋に負傷者2名を収容している、内1名は脊髄損傷の疑いがあり、非常に状態が思わしくないと無線連絡が入り現地本部

に集合している捜索隊は、救助隊とルート工作隊に別れ24日早朝に、救助隊はスノーボートを持って前進基地に向かう。ルート工作隊は搬送がスムーズに行えるよう、用意した装備等でルート整備を行う。救助隊CL林辰夫他25名、ルート工作隊A、CL小泉良明他2名、B、上田義和他4名、救助隊BCL粟飯原一成、数名、現場指揮は遭対委員長中村祈美男、隊長付総務は大倉が努める。リーダーの紹介後各リーダーから行動についての説明が行われた。

2月24日（日）救援隊は午前4時スノーボートを持って前進基地へ、各隊は昨夜の打ち合わせの通り行動に移る。7時50分柴ゾリ隊とすれちがう、8時に負傷者と合流処置をしてスノーボートに収容する。前進基地は午前6時ルート工作隊がでる、6時50分柴ゾリ搬送開始、9時20分柴ゾリとスノーボート合流メンバーは交代し、スノーボートは急を要するので先行する。ルート工作隊の活躍で救出搬送も事故もなく予定通り林道まで搬送し無事に医療機関に引き渡し訓練を終える事が出来た。

『京北署の感想』

スノーボートを初めて降ろしたがあれだけを持っていっても全然役に立たない事がわかり、それに付髄するいろんな装備品が必要だと感じた。いろんな意味で勉強させてもらった、実際に遭難事件が起きたとき救助活動が出来る様にして行きたい。

『参加者の感想』

＊初めてザイルで負傷者を担ぎ雪の中に足元が潜り非常に歩きにくかった。＊ザイルで担ぐのは大変だと言う事が分った。＊柴ゾリは引いてみて非常に重かった。＊救助訓練に参加して初めて、事故を起こしたら大勢の人の手がいる事が分かった。その他いろんな感想が出たが一部だけ紹介した。

『遭対委員長のまとめ』

各パートナーが非常に活躍し、誰も遊ぶことなく非常に手際よく活動した。これが予定通りの時間に事故もなく負傷者2名を医療機関に引き渡し終了することが出来た。尚、これは非常に大掛かりな訓練で単一組織ではこの捜索から搬送に至るまではなかなかできません、救助訓練を通じて技術交流を深め学ぶ事が出来ました。

私としては、連盟のこうした行事に躊躇することなく多くの部員参加され、技術、見聞を習得されますよう望みます。

〔参加者〕:吉田　武、大倉寛治郎、(由喜子)

「京都東南部」地形図の最高点 622ｍとフカンドウ△595.9

大　槻　雅　弘

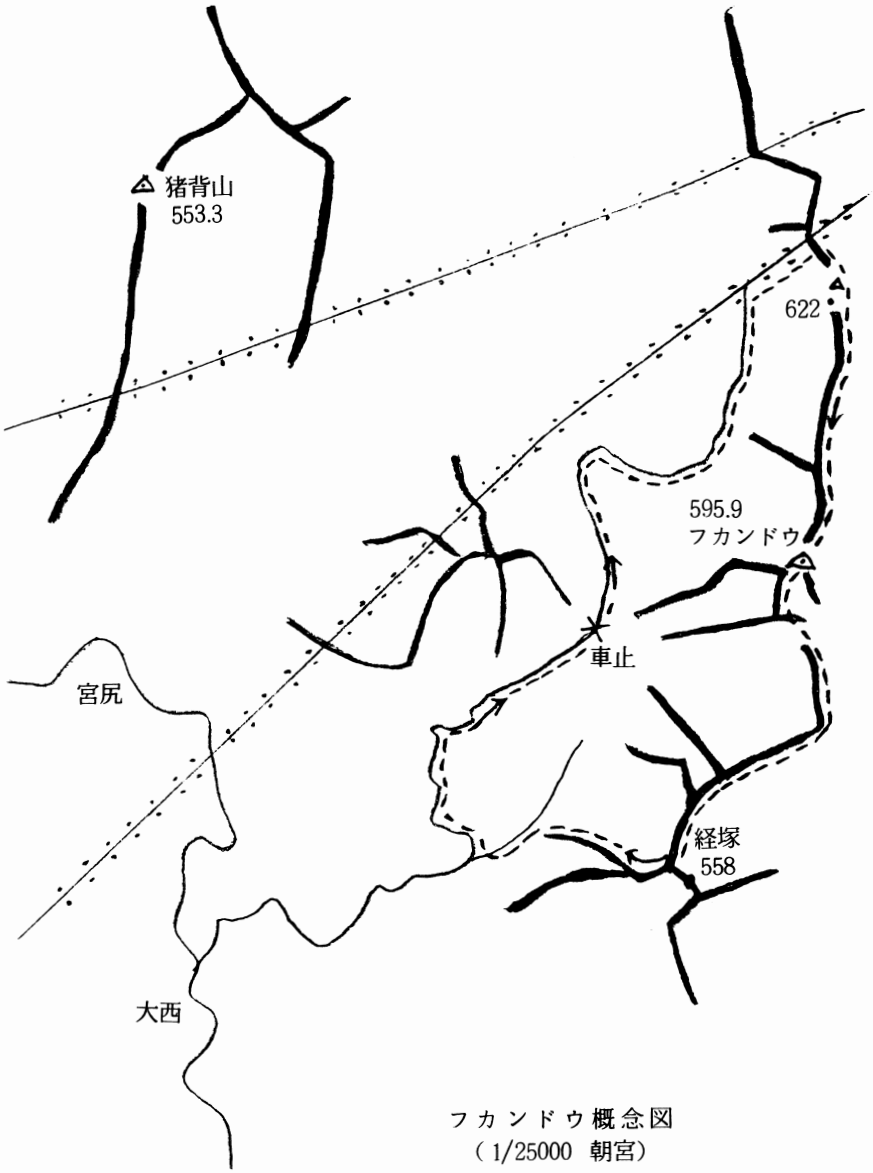
今冬は、昨年と比べ予想外の大雪に見舞われた。北山では、この大雪で北山杉が大きな被害を受け、京都府が山林業者に対して緊急融資をするという新聞記事を見た程である。

しかし、3月に入っても、南の方の山だから暖かいだろうと思って出掛けた処、予想に反し、林

道から多くの雪を見、又、あちこちで無残にも折れた杉を目の当たりに見て、これではさぞ北山では新聞記事の通り大きな被害になっていたことだろうと思った。

フカンドウは、鹿跳橋から信楽への道を走り、猪脊山の東南に位置する山であり、多くの岳人には余り知られていないと思う。

4 WDの車で雪を踏んで林道を3㎞程入り車を止めそして歩き出した。その林道にはすぐに3本の大きな杉が折れていて道をふさいでいた。しばらくは、ハードルを越えるように幾本もの杉をまたぎ進まなくてはならなかった。約1時間程で送電線の巡視路の案内のある地点で休憩した。杉木立の雪の中でひんやりとした場所はすぐに体が冷えてそうも長居は出来ず、すぐに出発した。そこからは、急登すること15分程で尾根に出られた。



フカンドウ概念図
（1/25000 朝宮）

尾根へ出た鞍部から径を左へ取ると送電線の鉄塔へ行くようだが、我々は右に取って最高点へ出た。そこには4等三角点があり、飯道山、大納言、阿星山等が良く見え、展望の良い場所であった。

三角点が最高点と思ったが、そこから50ｍ程の距離で高度差約10ｍ程高い所が622ｍとおぼしき場所で4等の設置場所は測量にいい見晴らしの場所を選んだようであった。

小憩の後、ゆるやかな起伏を乗越して△595.9の三角点に着いた。

昼食後、地図上の経塚を目指したが、その地点は、これと思う指導標も、経塚もなく、物足りない頂であった。

こことおぼしき雑木林の中を探したが何もないので早々に下った。でも、地図上の尾根を忠実にたどれて、予定どおりのコースを歩けたことに満足し山を後にした。

茶畑の緑と、うねの波間を埋めた白い雪との、コントラストが印象に残った山行であった。

〔参加者〕 大槻　他3名（1991. 3. 3）

例会報告

例会No.	目的地	月日	天候	担当者	参加者	記事
1823	氷雪技術講習・検定会 八ヶ岳連峰	2月8日～11日		大倉寛治郎		（別稿詳報）京岳連主催
1824	スキー登山 岩菅山	2月9日～10日	悪天	大槻　雅弘	古市　昌造 関本　俊雄 （他1名）	（別稿詳報）
1825	積雪期救助訓練「廃村八丁」	2月23日～24日		大倉寛治郎	吉田　武 （他1名）	（別稿詳報）

部員動静

目的地	月日	天候	参加者	記事
「京都東南部」地形図の最高点とフカンドウ	3月3日		大槻　雅弘 （他3名）	（別稿詳報）
桟敷ケ岳	3月3日	くもり 時々はれ	大倉寛治郎 馬淵　拓己 山岡　昭弘	（次号報告）
西国巡礼シリーズ No.3 昆沙門堂～大文字山～池谷地蔵～千石岩～三井寺	3月10日	くもり 時々はれ	西尾　直樹 山岡　昭弘	雪害なのか倒木が多数あり道が荒れていた。 （次号報告）

平成２年度山岳部
総会報告

３月11日（月）18時30分より、ハウス竹田において、平成２年度の京交山岳部総会を開催しました。坂井氏の乾杯の発声後議題に入りました。

〔出席者〕

（ＯＢ）　近藤、中村、田中、畑、石田(和)、坂井、奥村、津田、横井、村、辻、今井、石田(弘)
石川、森本

（本　局）　岡田、鷲見、田中忠久、古市、田村、山岡、上島弘子、若山、渡辺、三橋、和田、
方山、竹田、川原、井上、井戸

（高　速）　大倉、松田、山田

（梅　津）　吉田

（市役所）　西尾

以上36名

議　題

Ⅰ　平成２年　山岳部事業報告
Ⅱ　平成２年　山岳部活動表彰
Ⅲ　平成２年度　会計決算
Ⅳ　平成３年度　会計予算
Ⅴ　平成３年度　山岳部年間計画

Ⅰ　－平成２年京交山岳部事業報告－　（岡田部長）

平成２年の山岳部活動は、京都国体の開催で山岳部の活動が制約された一昨年や、部創立40周年の年であったにもかかわらず、国体の後遺症か不本意な状況に終わった昨年に比べると、ようやく持ち直しの傾向をみせてきている。

特に山岳部活動の根幹で、活動状況のバロメーターともいえる例会数と例会参加人員が、例会数で２割、部員の参加総数で２割強、部員以外の参加者までを含んで比較すると、３割を越す増え方である。しかし、一回でも例会に参加した部員の割合をみると、部員全体の半数にも満たない状況で、やはりペーパー会員の比率が高いのは変わっていない。

部報の投稿数は１割増というところであるが、ＯＢからの投稿が目立つところで、現役部員の奮起が望まれる。なんでもいいから書くことに慣れようではないか。投稿の経験者が部員の２割とい

うのはなんとも寂しいかぎりである。

集会の参加状況はやむを得ない事情で中止になった集会もあったが、やや下降気味であるのが気になる。集会への参加経験者が3割というのは、集会の内容や持ち方に問題があるのではないだろうか。

例会、投稿、集会の内容を見てみると、まず例会では一例会当りの平均参加者数は6.7人程度で、これは例年変わらず山行には適当な人数と言えよう。参加者延総数は例会数に比例しているということがいえる。昨年まで個人山行としていたものを、例会として登録するようになったものが多くなってきたことや、スキー大会の実施も部員外の参加者が多かった理由の一つといえよう。例会が増えれば例会延参加者も増える。しかし、例会個々をみてみると、イベントや近郊の山行に参加者が集中し、個性的な山行の参加者は少なくないのが実情で、山岳部の性格の二面性を両立させる工夫が必要である。その為には、昨年の事業報告でも述べたように、例会が重なって計画されても良いと考えている。例会は出ているが難しい山らしいのでと山行を止めてしまわず、近郊の軽い山行などはだれでも気軽に例会担当をしたい。リーダーでなければ例会担当は出来ない訳ではないので、仲間をさそいあって山に行きたい。週休2日で休日が増えたとは言え、まだまだ限られた休日をもっと有効に利用したいものである。

部報への投稿の第一歩はまず山行の時に必ず地図を持ちメモをとることである。参加者の様子、時間記録、そして峠や山道の状況、頂上の感激、地図には歩いたルートを記入、時間は地図に直接書き込んでもよい。そして必ず帰宅後に整理することである。それで原稿の出来上がりである。

集会の参加も是非実行することを願う。集会に参加しないから山行の計画が判らない。判らないから山に行かない。山に行かないから集会に行っても面白くない。という悪循環になっているのではないだろうか。とりあえず集会で山の話を聞き、山へのとっかかりを作ることである。新年度からは集会の開始時間を早くし、業務終了後の無駄な時間も少なくしたいと考えている。

山行とは計画（集会）、実施（山行）、報告（投稿）で完成するということを再認識していきたい。一度に全部はという人は、まずこの内の一つからでも実行してみることで、また新しい発見が出来る事と思う。

平成2年には山岳部事務局として、頑張っていてくれた大木君を失ったのがなんといっても悔やまれることで、改めて冥福を祈りたい。そのかわりの様に、若い20代の部員が多く入部してくれたのは、他の山岳部からも羨ましがられるほどで、次世代の山岳部を担う人材に育つことを期待したい。

平成2年1月～12月の活動状況

（平成2年12月末現在の部員数127名・内ＯＢ部員27名）

【例　会】

第1765回～第1819回まで　　計画55回　　実施45回　　中止10回

全例会の延べ参加人員　　296人（部員以外を含めると387人）
一例会当たりの平均参加人員　　6.6人（部員以外を含めると 8.6人）
例会に参加した部員数　　57人（全　部　員　の　45％）
〔参考〕10人以上参加のあった例会……　　9回
1人だけ（2人以下）の例会……1回（6回）

【集　会】

平成2年1月（新年会兼集会）～平成2年12月
計　画　12回　　実　施　11回　　中　止　1回
全集会の延べ参加人員　　168人（新年会、総会を除くと）　103人
一集会当たりの平均参加人員　　15.3人（新年会、総会を除くと）11.4人
集会に参加した部員数　　45人（全 部 員 の 35.4％）

【投　稿】

部 報 発 行　　平成2年1月号～12号　　発　行　12回
全部報の延べ原稿数　　99稿　（山声雪語を除くと87稿）
〔参考〕　　ＯＢ部員からの投稿　33稿 33％
各号当たりの平均原稿数　　8.3稿　（山声雪語を除くと7.3稿）
〔参考〕　一部報最高原稿数　　15稿　　一部報最低原稿数　5稿
投稿した部員数　　26人　（全　部　員　の 20.5％）

【総　合】

例会、集会、投稿のいずれかに1回以上参加（投稿）した部員　　65人
（全部員の51.2％）
例会、集会、投稿、各々に1回以上参加（投稿）した部員　　18人
（全部員の14.1％）

Ⅱ 山岳部活動表彰 （鷲見副部長）

例会参加		
	22	三橋　勉
	22	大槻雅弘
	19	岡田茂久
	18	津田　実
	15	奥村弘信
◎	15	横井襄二
	14	吉田　武
	13	古市昌造
	13	方山宗子
	10	山岡昭弘
	9	大倉寛治郎
	9	馬淵拓己
	8	西尾直樹
	8	和田良一
	8	原田加津子
	6	坂井久光
	6	井戸澄夫
	6	竹田　勉
	6	伊藤潤治
	6	田村正弘
		（5回以下省略）
		※10回以上を対象

集会参加		
	11	岡田茂久
	11	大倉寛治郎
	11	横井襄二
	11	山岡昭弘
◎	10	方山宗子
	9	吉田　武
	9	古市昌造
	8	大槻雅弘
	8	三橋　勉
	8	奥村弘信
	8	坂井久光
	8	和田良一
	7	井戸澄夫
	4	井上一夫
	3	山元誠一
	2	原田加津子
	2	竹田　勉
	2	田村正弘
	2	鷲見敏一
	2	津田　実
	2	山口雅直
	2	西尾直樹
	1	大塚孝之
	1	馬淵拓己
		※10回以上を対象

部報投稿		
	11	津田　実
	9	山岡昭弘
◎	8	坂井久光
◎	7	三橋　勉
	6	大槻雅弘
	6	大倉寛治郎
	5	横井襄二
	4	伊藤潤治
	3	岡田茂久
	3	奥村弘信
	3	馬淵拓己
	3	西尾直樹
	2	井戸澄夫
	2	山元誠一
	2	古市昌造
	2	台川敦美
	2	山口雅直
	1	鷲見寿末子
	1	井上一夫
	1	吉田　武
	1	荒田又之助
	1	大塚孝之
	1	久保忠造
	1	竹村芳広
	1	上田　隆
		※6回以上を対象

総合			例会	集会	部報
◎	45	岡田茂久	19	11	3(15)
◎	37	三橋　勉	22	8	7
◎	36	大槻雅弘	22	8	6
◎	31	津田　実	18	2	11
	31	横井襄二	15	11	5
	30	山岡昭弘	10	11	9
◎	26	奥村弘信	15	8	3
◎	26	大倉寛治郎	9	11	6
	24	吉田　武	14	9	1
	24	古市昌造	13	9	2
	23	方山宗子	13	10	0
	22	坂井久光	6	8	8
	16	和田良一	8	8	0
	15	井戸澄夫	6	7	2
※	13	馬淵拓己	9	1	3
※	13	西尾直樹	8	2	3
	10	伊藤潤治	6	0	4
	10	原田加津子	8	2	0
	8	竹田　勉	6	2	0
	8	田村正弘	6	2	0
	7	井上一夫	2	4	1
	7	山口雅直	3	2	2
	6	鷲見敏一	4	2	0
	6	山元誠一	1	3	2
	5	大塚孝之	3	1	1

※ 新人賞（特別表彰）

Ⅲ　平成２年度会計決算　（会計　川原）

単位：円

	平成２年度京交山岳部会計決算			
	収入	金額	支出	金額
一般会計	1 部費	667,800	1 備品消耗品費	40,000
	OB 174,050		2 助成金	25,834
	本局 285,000		3 集会費	0
	西賀茂 10,000		4 総会費	20,000
	梅津 15,000		5 部報代	546,100
	五条 5,000		6 通信費	40,585
	醍醐 5,000		7 遭対資金積立金	66,000
	横大路 5,000		8 岳連会費	18,000
	錦林 10,000		9 事務費	8,500
	九条 5,000		10 45周年記念積立金	53,000
	烏丸 35,000		11 雑費	35,143
	洛西 30,000		12 次年度繰越金	1,030
	高速 70,000			
	市役所 18,750			
	2 厚生会助成金	60,000		
	3 雑収入	126,134		
	広告料	75,000		
	雑収入	51,134		
	4 前年度繰越金	258		
	合計	854,192	合計	854,192
45周年記念積立金会計	1 前年度繰越金	186,076	1 次年度繰越金	239,076
	2 2年度積立金	53,000		
	合計	239,076	合計	239,076
遭難対策資金積立金会計	1 前年度繰越金	1,709,976	1 次年度繰越金	1,840,616
	2 利息	64,640		
	3 一般会計繰入金	66,000		
	合計	1,840,616	合計	1,840,616

Ⅳ　平成３年度会計予算　（会計　川原）

単位：円

	平成３年度京交山岳部会計予算			
	収入	金額	支出	金額
一般会計	1 部費	670,000	1 備品消耗品費	39,000
	（134×5000）		2 助成金	30,000
			3 会議費	20,000
	2 厚生会助成金	60,000	4 部報代	600,000
			（50,000×12）	
	3 雑収入	80,000	5 通信費	40,000
	広告料	80,000	6 遭対資金積立金	60,000
	雑収入		7 岳連会費	18,000
			8 事務費	3,000
	4 前年度繰越金	1,030	9 雑費	1,030
	合計	811,030	合計	811,030
45周年記念会計	1 前年度繰越金	239,076	1 次年度繰越金	239,076
	合計	239,076	合計	239,076
遭難対策資金会計	1 前年度繰越金	1,840,616	1 次年度繰越金	1,967,616
	2 利息	67,000		
	3 一般会計繰入金	60,000		
	合計	1,967,616	合計	1,967,616

Ⅴ　平成３年　京交山岳部年間計画

項目／月	テーマ	大会山行	山行	行事	備考
				インドア	
4	・残雪を貰でて	・春山大会	・荒島岳（春山大会） ・金峰山（13～14日）		京都の山の調査
5	・陽光を歩く		・紀伊半島の山　法師山、烏帽子山（3～5日） ・笈ヶ岳（3～6日） ・氷ノ山		
6	・雨ニモメゲズ		・小秀山（22～23日）		岳連救助訓練（北山周辺）
7	・暑サニモ負ケズ	・夏山大会	・北岳（12夜～14日）（夏山大会） ・干支の山　羊蹄山（7月24日～8月5日）		
8	・雲表の彼方へ		・越後三山（高倉沢より）（23～25日）	・厚生会登山 ・夏山キャンプ大会（家族連れ）	京都の山の調査
9	・名月を山で		・大無間山（15・16日） ・剣岳（早月尾根～池ノ平～仙人小屋～阿曽原～ケヤキ平）（14～16日）		
10	・初秋の山へ		・金剛堂山（12・13日） ・若丸山（20・21日） ・鈴鹿雨乞岳 ・獅子岩（比良）及びシャカ岳		石川国体
11	・紅葉の山へ	・秋山大会（合同登山）	・雨飾山（3・4日） ・美濃俣丸（9・10日） ・合同登山（23・24日）		岳連（遭難を無くそうの集い）
12	・新雪の山へ		・田君谷山 ・台高　国見山（22・23日） ・美女山（29日）	・納山祭（14・15日）	
1	・雪山を楽しく	・初登山（申）	・湖南アルプス　庚申山（5日） ・篭ノ登山　スキー登山（11・12日）	・新年会	
2	・冬山を楽しく	・冬山大会	・和田山牧場から野伏（冬山大会） ・伊吹山スキー登山（8・9日） ・北山　滝谷山から天ガ岳		岳連八ヶ岳（遭難対策訓練）
3	・来れ春山へ		・御岳 ・五竜岳スキー登山（20～22日）	・総会	
その他	・府県境シリーズ（京都の山の調査の山行を兼ねます） 大迫山、西山、鎌倉山、途中峠の上のピーク、黒滝山（大山）、シンコボ、篠原山、（横谷）……尚、（　）内は点名 ・インドアのワンポイント講習を吉田　武さんの企画担当で年間を通して実施します。 ・４月より集会の開始時間を６時に変更いたします。				

インドアー講習について

企画　吉　田　　武

4 月　京都の山、出版についての概念図と原稿の書き方
講　師　2名（大槻、吉田）

5 月　京都の山、出版についての概念図と原稿の書き方
講　師　2名（大槻、吉田）

6 月　山野草について
講　師　1名（坂井）

7 月　夏の星座について
講　師　1名（三橋）

9 月　観天望気について
講　師　1名（吉田）

11 月　地図の読み方について
講　師　1名（岡田）

1 月　冬の星座について
講師師　1名（三橋）

3 月　山菜について
講　師　1名（鷲見）

（注）山岳部集会にて講習を行います。

質　疑　、　補　足　等

Ⅱ　山岳部活動表彰

補　足（鷲見副部長）― 昨年20才台の若手の入部が数多くありました。新人賞を設けました。

Ⅲ　平成2年度会計決算

質　疑（岡田部長）― 支出における事務費が0円とは変である。雑費（43,643円）の中から事務費に相当するものを分ける方が良いのではないか。

回　答（会　　計）― 雑費から8,500円（事務費相当額）を事務費にします。

補　足（会　　計）― 利息は遭対資金積立金の定期預金部分の利息。

Ⅳ　平成3年度会計予算

質　疑（三　　橋）― 45周年記念積立金にも利息が付くのではないか。

回　答（会　　計）－決算時の雑収入にて処理している。
補　足（会　　計）－収入の部費はＯＢの切手代も含んでいる。
支出の会議費は総会と集会を合わせています。

平成３年度　京交山岳部年間計画

補　足（鷲見副部長）－ＯＢの行ける山が少ないとの声がありますが、出版に関連した日帰りの山行もありますのでふるって参加して下さい。また、自分の行ける山もどしどし例会に出して下さい。

（大　　倉）－岳連の行事を追加して下さい。（６月、11月、２月記入）

（井　　戸）－春山大会の荒島岳と９月の剣岳を企画しました。我が友大木君の追悼登山として私なりに企画しました。

（鷲見副部長）－京都の山出版について。８月には原稿をまとめて、平成３年度のうちには出版したいので協力をお願いします。

以上の質疑応答補足説明、誤字等訂正して、承認されました。
議長の閉会宣言により総会を終了しました。

雑　　報

▲▲▲ ３月の集会

３月11日（月）　ハウス竹田
平成２年度総会に引き続き集会を行った。出席者は総会と同じ。
内容：例会報告、例会予定、新人部員紹介、その他。

▲▲▲ 新入部員

花　岡　弘武（ひろむ）　所　属　梅津営業所
住　所　京都市右京区太秦上ノ段町１－17
生年月日　昭和15年１月10日生
血液型　Ｂ

山　田　哲　也　所　属　高　速（検車区）
住　所　京都市北区大北山原谷乾町260－５
生年月日　昭和46年６月３日

光　村　弘　志	所　属	OB
	住　所	京都市山科区勧修寺西金ケ崎100－59
	生年月日	昭和3年9月15日生
	電話番号	075－591－9667
	血液型	O型

▲▲▲ 退部のお知らせ

烏丸　戸倉　庄之助
本局　藪田　民栄

▲▲▲ 他山岳会の会報（受贈分）

2月号　青嶺

3月号　一等三角点、近畿山行、趣味の登山、比良山岳、木雞、山友、京都山岳、北山

SINCE 1980
THE LOG CABIN CO.
H.HASEGAWA'S SHOP
FOR ALPINISTS
KYOTO JAPAN

結婚引出物・内祝・開店記念品・粗品
仏事用お返し品・お中元・お歳暮用品
贈答品総合センター
厚生会指定
サンコークラフト
西島輝雄
左・川端丸太町下る下堤町88
TEL（075）771－3442

帆布・濾布
テント・シート
雨合羽
木村工業有限会社
京都市中京区ミブ車庫前
TEL 801－5331（代）
西大路営業所
下京区西大路七条下ル
TEL 321－0251

登山とアウトドア専門店
今、アウトドア派大集合!!
●登山用品はもちろん、注目のスポーツカヌーをはじめ、ひと味違う充実の品揃えは必見のもの!!

ビッグホリイケ
営業時間 AM10:00～PM9:00〈年中無休〉
京都市中京区御池通高倉西入（千代田生命京都御池ビル2F）
☎(075)222-0363

●技術とサービスの創る！印刷

株式会社

北斗プリント社

タイプ・写植オフセット印刷●電子写真印刷

〒606 京都市左京区下鴨高木町38-2(バス停前)
TEL(075)791−6125(代)
FAX(075)791−7290

建設省国土地理院発行地図販売特約代理店
国土地理院空中写真（カラー・白黒）取次
通産省地質調査所発行各種地質図取扱店
各種地図製作並びに印刷
地形図は、20万・5万・2万5千とも全国を常備しております。

株式会社 小林地図専門店

〒600 京都市下京区不明門(あけず)通六条下る西側
(烏丸通六条東 1筋目下る) ☎(075) 351−6598㈹

地下鉄：五条駅 5番出口・市バス：烏丸六条下車

平成3年4月1日

京都市中京区壬生坊城町48

京都市交通局内

京交山岳部